

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2022 年度・第 2 回

2022 年 11 月 25 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した自己評価結果と取り組みに対する評価する。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2022年度 第2回学校関係者評価委員会

・日時：2022年11月25日（金）17：00～18：30

・場所：読売理工医療福祉専門学校 305・306教室

2022年度における各学科の各評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【学校関係者評価委員】（敬称略・順不同）

- ・渡部俊一：OB（理工専校友会会長）
- ・本田章良：保護者（臨床工学科2年生）
- ・杉田明治：地域住民（文京区礪川地区町会連合会 会長）
- ・中村孝之：団体等（日本建築衛生管理教育センター）
- ・羽場宏祐：企業等（株式会社インターナショナルクリエイティブ 取締役最高顧問）
- ・鹿毛信一：企業等（河端建設株式会社 工事部部长）
- ・小嶋 守：企業等（小嶋電工株式会社 専務取締役）
- ・伊藤大輔：企業等（医療法人社団 愛友会 伊奈病院 医療技術部 臨床工学科 係長）
- ・大庭尚子：団体等（港区在宅療養相談センター）

【学校側委員（オブザーバ参加含む）

- ・松井 敏宏：理事長
- ・吉山 隆晴：法人本部長
- ・中條 学：事務局長
- ・水落 清治：校長
- ・高橋 栄樹：放送映像学科長
- ・小川 貴之：建築系学科長
- ・秋田谷徳靖：電気電子学科長
- ・沢田 雄太：臨床工学系学科長
- ・曾我 辰也：介護福祉学科長

4. 議事

1. 挨拶 松井 理事長

2. 学校関係者評価報告書について

3. 報告事項ならびに取組み事項

①今年度の重点項目について

- ・昨年度に引き続き退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を10%以下とする。
- ・就職希望者のすべてが就職できるように、就職指導の強化を行う。3月末の就職率を前年度の90%を超えるようにする。

②来年度の年間日程

③その他

4. 質疑
5. 評価委員から意見・講評
6. 事務連絡他 評価シートについて

5. 配布参考資料等

- 資料 1 報告事項ならびに取組み事項
- 資料 2 重点項目に対する状況報告資料
- 資料 3 第 1 回学校関係者評価報告書
- 資料 4 今年度の新型コロナ感染対策資料
- 資料 5 学園祭実施のための基本方針

6. 報告事項

①教育活動状況

・コロナ感染対策

今年度 4 月からは、ほぼ対面授業を実施している。学内の授業だけでなくイベントや校外授業も、感染対策を講じながら中止することなく実施している。

毎朝の健康観察・マスク着用・手指消毒・机上消毒・密回避に加え、通学時の感染防止策として始業時間の繰り下げや昼食時の黙食の実施を継続している。

希望者を対象に、東京都のモニタリング検査にも参加し、感染者を発見するための方策も行った。

ワクチン接種についても、大手町読売新聞社職域接種で学生がワクチン接種出来る機会が設けられている。

・学園祭

3 年ぶりに文京校では初めての学園祭を開催した。学外から約 250 名の来校があった。

・学生の表彰

SD 研究会が「木の家設計グランプリ 2022」コンテストでダブル受賞。

「優秀賞」、「松岡賞」

作品名「ハナレる母屋繋がるハナレ」

主催 (株) 木の家専門店 谷口工務店

②今年度の重点項目の確認

以下の 2 点に重点を置き、学校運営をしている。

- ・昨年度に引き続き退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を 10%以下とする。
- ・就職希望者のすべてが就職できるように、就職指導の強化を行う。

3 月末の就職率 を前年度の 90%を超えるようにする。

③現在の除籍退学者の状況

残念ながら現在の状況は、昨年度同時期よりも良くない。

詳細は各学科から報告する。

④就職率向上

学科によって異なるが、全体的にはまだ改善されていない。

残りの学生への対応で全員内定を目指す。

⑤来年度の年間日程 (行事予定)

祝日との関係で学園祭の振替休日の調整をしている。

スポーツ大会の日程を早急に決めたい。

7. 委員からの評価と意見（評価点：5点満点）

評価に関して段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝（不十分である）

● 教育活動①感染対策の評価（5.0）

- ・ 感染対策は100%に近い防止を行っていると思います。これまでと一緒に、感染対策を続けてください。
- ・ かなり神経をつかわれていて分かりやすいマニュアルがとても良いです。
- ・ 対面授業を始めた中で、感染数が少なく、クラスターもおこしていないのは、感染対策やワクチン接種の斡旋といった活動をしっかりと行っている証拠であり、とても評価できる。これを妥協する事なく続けてほしいと思う。
- ・ 対策に関しては、必要十分に実施できている。また、対応については、文科省又は厚労省等からの通達に応じてアップデートしていくことも必要。基本的に標準予防策は今後も確実に実施していくことが感染予防には効果があると思われる。
- ・ 学校としてできることは全てしていらっしゃると存じます。
- ・ コロナ対策は細部にわたり感染予防と安全確保を推進し実績を上げた。
- ・ 毎朝の健康観察、マスク着用や消毒の徹底、時差通学の実施等、また、読売新聞社職域接種を活用したワクチン接種の機会を設けるなど申し分のない対策が取られ、対面授業、校外活動が中止することなく実施されているのは高く評価されるべきと思います。

● 教育活動②学園祭などの評価（4.33）

- ・ 校舎が引っ越しで大変な時期にコロナも発生し、その中で学園祭を開催した先生方また事務局の皆様お疲れさまでした。2023年は、より広く開催案内を公表していただき、外部として私共もご協力させていただければ幸いです。
- ・ コミュニケーションの場としていろいろな事を考えてほしいです。
- ・ 学校祭が行えた事は、学生にとっても学校に通う事へのモチベーションや息抜きとなり、とてもよかったと思う。また学外からの来校者も多く、地域との交流の場としてもよい事だと思う。学外からの来校者に含まれる、学校に興味を持っている学生を見極めアピールする事で入学者の増加につなげてほしいと思う。
- ・ 学園祭など学校行事は学生生活にとって大切な位置づけであるため、実施できたことで学生としての成長やクラス運営等良い効果が表れたのではないかな。
- ・ 準備をされているときの学生さんたちの楽しそうな笑顔と、それを一緒に喜んでいる先生方の姿が印象的でした。やはり「人やモノと付き合う事」が人として一番楽しいことであり、それができないこのコロナの残酷さを改めて感じました。来年も是非開催されることを、そして地域と交流できることを望みます。
- ・ 新キャンパスに移転して初めての学園祭、特にオープンキャンパス、地域社会との協働主催によるコミュニケーションと学園のPRをさらに推進するスタートと考えております。
- ・ 新型コロナ禍にありながら、学生による運営組織を構築し、学生を中心とした運営体制の中で、多数の地域住民の方々が来校され成功裡に開催できた

ことは、教職員の方々の日頃の指導の結果であり、高く評価されるべきと思います。

- ・ 地元の商店会、自治体への周知を早めにして、参加者がより増える事を望みます。
- ・ 今年は学園祭を開催出来てとても良かったと感じています。来年は近隣へのアピールを開催時期が決まった段階で早々に行ってください。お客様が多くなれば、生徒たちも、もっと楽しめると考えております。

● 重点項目①除籍退学率 10%以下目標の評価 (4.00)

- ・ いろいろ問題はあるかと思いますが、基本的には一人一人の生徒さん自身の問題のようで、先生方が生徒さんから話を聞くだけでも大事かと思いました。
- ・ 努力されているのがものすごく分かります。努力だけでは解決出来ない事もあるのでなかなか難しいと思います。
- ・ 除籍退学に、進路変更が多くあるのは気になる。学生が今勉強している分野の就職後の仕事内容や、その楽しさを知るためのイベント（職業体験や卒業生との交流など）を考えていくといいのではないかと思う。
- ・ 除籍退学率1割に関しては、おおむね達成できているが、専門学校なので特に新卒や転職としての技術習得目的の学生にとって、合う合わないや期待値の差が激しいので、おおむね10%を目指せばいいと考えられるし、選抜の所でもう少し職業人としての大切なこととお話して入学の前からの準備も必要なのではないかと考えます。
- ・ 除籍退学率を10%以内に抑えていることは、学校の目標の達成に学校全体で努力されたかたと存じます。
- ・ 特に留学生にとって現状の日本経済失速に伴い諸外国に比較し低賃金の為、生活が苦しいと思います。さらにコロナによるリモート授業の増加は留学生とのコミュニケーションの低下は学校との心の乖離が生まれると思います。是非工夫を凝らし直接留学生と会う機会を増やしてほしい。
- ・ 昨年と比べ除籍退学率の数値が良いとは言えないようですが、これは学生個人に起因するところが大きく、指導体制としては十分な対応がなされていると思います。
- ・ 日頃からのコミュニケーションを増やし早め早めの対策を！入学希望時からの志望動機を明確にしておく。
- ・ 除籍退学率は悪くはないと思っています。評価を3にしたのは、先生方が除籍退学者に時間を割いて、授業の準備等に影響がないか心配しているからです。先生方のご苦勞を感じます。

● 重点項目②就職率向上の評価 (4.00)

- ・ 就職率向上は、学科に違いがあるため難しい問題です。その中、なおコロナ禍と就職率が低いような気がします。
- ・ 臨床工学科に関し、学業に不安がある学生でも、早い時期から見学だけでも就職活動をさせてもいいと思う。実際に働く環境を、自分の目で見たり聞いたりする事で勉強にも目標が出来るし、クラス全体の就職への意欲や雰囲気も高まると思う。
- ・ 様々な分野での養成校であるので、「社会のニーズ」のあるところは求人も多いと思われるが、それ以外の所は、インターンを利用するなど学生自身が

会社の様子が分かるような場を設けることも必要。又資格があつて初めて結びつく学科については国家試験対策を実施し100%合格を目指してほしいところである。

- ・ 希望者全員の就職を目指して努力されている先生方の努力が報われつつあると感じました。
- ・ インターシップ授業が開始出来ればと思います。
- ・ 新型コロナ禍の影響により、職種によっては新卒採用を手控える業種もあるようですが、専門学校の大きな使命の一つは「就職」にあると思いますので、就職希望者の就職率100%に向けて努力していただきたいと思います。
- ・ インターンシップの実施等で企業の内容を把握し、入社後を継続的に働ける様にするとう企業からの募集も増える。
- ・ 学科によって就職率が異なっていますので全体での評価は難しいですが、全体的には良いと感じています。

● 全体の評価 (4.38)

- ・ いろいろな対策を講じ苦労されているのが分かります。中にはなかなか難しい学生がいるとは思いますが、努力されている事が見て取れます。引き続き努力して頂きたいと思います。
- ・ コロナや少子化といった世間情勢の中で、学生を集め指導し、就職へと導くのは大変な事であり、先生方の努力には敬意を表します。そんな中で外部参加型の学園祭やその他行事が行えるようになったのはとてもうれしい事であり、それらを生かして学校をよりアピールして入学者を増やして頂けたらと思います。
- ・ 今後、留学生の入国緩和の動向を把握しつつ入学生の確保を高校等への募集活動と共にリカレント教育についても目を向けてはどうかと思います。
- ・ コロナ禍の中で学業も就職への取り組みなどすべてに学校全体のパワーを感じます。
- ・ 健康第一に考え授業とのバランスを考慮した対応は評価に与える。
- ・ 教育活動、重点目標 については十分に努力されていると思いますが、その一方で学生募集の状況 やその対応も 重要だと思います。在校生が得た社会的な評価 (SD 研究会のコンペ入賞) など、読売新聞社の力を借りながらもと社会・高校生) にアピールし、学生募集活動に繋げていただければと思います。
- ・ コロナ禍、良くやっていると思う。留学生に頼らない学生の確保を！学校訪問をこれからもたくさん実施してもらいたい。
- ・ 全体的に先生方と学校のスタッフの努力により多くのコロナの感染者を出さず、授業も順調に進められていると、とても感じています。大変ですが引き続きのご努力をお願い致します。

8. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

高評価をいただいた項目もあるが、ご指摘を受けた事項については、すぐには無理でも今後のために確認しておきたい。

以上